

## [054]中国文学論集表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/7405114>

---

出版情報：中国文学論集. 54, 2025-12-25. The Chinese Literature Association, Kyushu University  
バージョン：  
権利関係：



## 編集後記

『中国文学論集』第五十四号をお届けいたします。本号は十二名の執筆者の皆様にご寄稿いただき、中国古代から近現代、さらには近代日本に至るまで、幅広い分野にわたる多彩な研究成果を収録いたしました。無事に刊行の運びとなり、こうして皆様のお手元にお届けできますことを、心より嬉しく思っております。

二〇二五年は本学中国文学研究室にとっても、さらには中国哲学史研究室・言語文化研究院・比較社会文化研究院といった本学の中国学関連諸研究室・研究院にとっても、たいへん実り多い一年となりました。とりわけ、本論集の「彙報」にもご案内しておりますように、十月十一日(土)から十三日(月)にかけて、第七十七回日本中国学会を伊都キャンパス・イーストゾーンにて無事に開催できましたことを、大変誇らしく、また嬉しく感じております。

今回の大会は一九五九年(第十一回)、一九七三年(第二十五回)、二〇一一年(第六十三回)に続く四度目の開催であり、約三〇〇名の学会員が伊都キャンパスの新校舎を訪れてくださいました。諸先生方の歓迎と新キャンパスのお披露目を兼ね、本研究室の静永健先生を中心に、中国哲学史研究室・言語文化研究院・比較社会文化研究院の先生方と協力し、フジイギャラリーにて「九州大学一〇〇年の中国学研究」と題した企画展示も開催いたしました(二〇二五年十月六日～十一月二十八日)。

展示では、日本の中国学を牽引してきた本学歴代の研究者による自筆原稿や研究資料をはじめ、朝鮮古写本『朱子語類』(全百四十巻)、唐・玄宗皇帝の肉筆を唯一今日に伝える『紀泰山銘』の拓本、古典小説三国志演義の稀覯本『三国志伝』(二十巻)など、貴重な資料が一堂に並びました。さらに、新たに重要文化財に指定された春日政治・和男両名誉教授旧蔵の『金光明最勝王経』も、期間限定で特別公開され、多くの来場者の注目を集めました。約二ヶ月にわたる開催期間中、来場者数は一六四四名にのぼ

りました。なお、添付の写真は、日中学会開催時に静永先生が行われたギャラリートークの様子です。

このたびの日本中国学会を通じて、国内外の研究者の皆様にも、本学の二〇〇年にわたる中国学研究の歩みをご紹介する機会を得ました。この長い歩みを改めて振り返るとともに、先学の築かれた伝統を受け継ぎ、これからの百年も豊かな発展を続けていきますよう、心より願っております。

今後、本学の研究成果を積極的に発信してまいりたいと存じます。まずは次号論集へのご投稿を、会員の皆様よりお寄せいただけますと幸いです。どうぞふるってご投稿ください。

(孫 琳 浄 記)



静永健教授によるギャラリートーク (2025年10月12日)